

ゴンベッサ III – 南極に挑む！

ブランパンとローラン・バレスト氏が、リュック・ジャケ氏およびその「ワイルドタッチの探検-南極大陸！」プロジェクトと提携し、ゴンベッサ・プロジェクトによる第3次調査探検を実施。

動物学における20世紀最大の発見といわれるシーラカンスの謎に包まれた生態を明らかにしたゴンベッサ・プロジェクトの第1次探検、そして太平洋における壮観なマダラハタの産卵を調査した第2次探検。これらの調査に続いて今回、ローラン・バレスト氏とブランパンが共同で、史上初の探査、潜水、撮影を兼ねた南極探検に挑みます。今回の調査探検は、映画監督のリュック・ジャケ氏（「皇帝ペンギン」で2006年アカデミー長編ドキュメンタリー映画賞を受賞）が手掛けた壮大なプロジェクトの一環として実施され、南極地域における地球温暖化の影響を調べ、人々の関心を高めることを目的としています。

ゴンベッサ III（ゴンベッサ・プロジェクト第3次調査探検）の拠点は、テール・アデリーにあるフランスのデュモン・デュルヴィル観測基地に設置されます。今回の調査では、初めて専門のダイバーチームが南極の氷河の下に潜ります。この潜水調査は人的および技術的な意味で果敢な挑戦であり、世界で初めて南極の深海の生態系を自然科学の観点から解明する、前人未踏の試みとなるでしょう。ゴンベッサ IIIのチームは、多くの研究団体、特にパリ自然史博物館やマルセイユ国立科学研究センターの要望を受け、地球温暖化問題と関連する深海動物の詳細調査に協力し、撮影内容の全てを学術発表のために研究者に提供する予定です。

ゴンベッサ IIIは、リュック・ジャケ氏が設立・主宰する団体Wild-Touchによる「ワイルドタッチの探検-南極大陸！」プロジェクトの深海の分野を構成します。「皇帝ペンギン」の撮影から10年を経て、再び南極大陸を訪れる映画監督、ジャケ氏。今回は、著名な写真家、ローラン・バレスト氏とヴァンサン・ミュニエ氏の2名を含む有能なアーティストック担当チームが同行し、地球温暖化によって危険に直面する世界を感性豊かに表現します。なお、地球の果てで実施されるこの潜水調査は、多くのパートナーの協力ならびに、ポール=エミール・ヴィクトール極地研究所とフランス領南方・南極地域による人員および物資調達面での支援により実現可能になりました。

今回の調査探検は、www.blancpain-ocean-commitment.comで公開される日々のビデオブログを通じて随時、閲覧することができます。これを元に、数々のドキュメンタリーフィルムが製作される予定で、その一部は権威ある賞を獲得した「ゴンベッサ I - シーラカンス - 深海に探る人類の起源」、「ゴンベッサ II - 神秘の魚、ハタ」と同様、ARTE（アルテ）が製作を担当します。また、リュック・ジャケ氏がIMAXフィルムを撮影するほか、子供向けの本を含む書籍の出版、リヨンのコンフリュアンス博物館（2016年4月18日～8月15日開催）などでの展覧会の開催、さらにソーシャルネットワーク上での大掛かりな意識向上キャンペーンの実施が予定されています。